

西海ブロック水産業情報

NO. 104 (2019年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>特になし。</p>	<p>○有明海 【ノリ養殖】 ・12月30日から冷凍網が出庫され、1月7日から摘採開始。 ・1月23日～2月12日までスケルトネマ属赤潮が発生し、1月25日に色落ちを確認。2月19日にユーカンビア赤潮が発生、1月25日から発生している色落ちが長期化。2月22日から色落ちにより生産不能となったノリ網の撤去を開始。3月10～13日に支柱の中間撤去が行われた。 ・ノリ網撤去期限の4月8日をもって終漁、支柱撤去は4月11～24日に行われた。 冷凍網生産は、生産枚数 850,876,900枚(過去5年比89%)、生産金額11,283,179,780円(過去5年比97%)、平均単価13.26円(過去5年比+1.11円)。 30年度漁期全体では、生産枚数 1,123,697,900枚(過去5年比88%)、生産金額15,077,978,936円(過去5年比97%)、平均単価13.42円(過去5年比+1.25円)。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・全体的に成長は順調に推移。3月上旬までで生産終了。生産量は昨年並みの見込み。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ： 1月9日から種苗生産開始。3月末時点で全長23～31mm約20万尾飼育中。 ・クロアワビ： 平成29年度産：12月中旬から2.3万個(30mmサイズ)を配布中(約2.0万個配布済)。3月末時点で殻長25～28mmサイズを約1万個飼育中。 平成30年度産：10月30日から種苗生産開始。3月末時点で殻長8～11mm約12万個飼育中。 ・マナマコ： 3月5日からアオナマコの種苗生産開始。3月20～21日に採苗。波板飼育中。3月26日からアカナマコの種苗生産開始。幼生飼育中。</p> <p>○有明海 ・ノリ養殖： 冷凍網の出庫は12月30日に行われ、出庫後の戻りは良好であった。しかしながら、その後、1月の少雨と1月上旬以降の継続した赤潮(スケルトネマやユーカンビア)の発生により色落ちの被害が例年よりも大きく、また、アカグサレ病の被害も加わって、冷凍網期の生産枚数は昨年よりも少なかった。 秋芽網期と冷凍網期を併せた最終的な生産は、枚数16.3億枚、金額229.5億円となり、15年度以降16年連続で生産枚数・金額ともに日本一となった。 ・マカキ養殖： 平成30年度は20経営体25基の筏を用いて生産がおこなわれた。生産量は33.6t(昨年度比36%)で、直近5年間で最も低い生産量となった。 不調の理由としては、夏季の大雨による脱落やフジツボ等の付着物が多かったことが考えられた。</p>		<p>・3月：マダイでピバギナ症での被害発生。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・2月下旬～4月上旬に鹿児島湾奥部で<i>Heterosigma akashiwo</i>による赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。 ・イワガキ養殖用種苗 16千個出荷(30mm)</p>	<p>①県南地区における養殖ワカメ初収穫 平成30年度から日南市3地区において宮崎県では初めての副業的ワカメ養殖が開始された。種糸は他県産を利用し、平成30年12月下旬～平成31年3月中旬まで養殖を行った。このうち1地区ではほとんど生育がみられず収穫には至らなかったが、他の2地区では大きな食害や生育不良もなく、概ね順調に生産できた。 2月上旬頃から収穫が始まり、2地区における最終収穫量は約1.3トンとなり、収穫したワカメは、直売所・小売店での販売や地域イベントにて提供され、売れ行きも好調、好評とであった。また、ふるさと納税の返礼品にも採択され、高い評価が得られている。今後、生産規模の拡大や技術改善などに際し、普及指導員と連携しながら漁業者のフォローアップを行っていくこととしている。 ②アカアマダイ人工種苗の標識放流 平成31年3月13日、日南市油津港において、アカアマダイ人工種苗(全長80mm)4,200尾を標識(右腹臍切除)放流した。</p>		<p>今期(平成30年11月～令和元年5月)のオキナワモズクの養殖生産が不調である。</p>